



発行者 島根県健康福祉部  
医療政策課医師確保対策室

### 今回の紙面

- ◆ 地域医療最前線 NO.82 「時代に即した医療・介護の提供体制について」  
《島根県健康福祉部長 安食 治外》
- ◆ 専攻医のページ「総合診療科を専攻して感じること」  
《益田赤十字病院 総合診療科 青木 光》
- ◆ 看護師さんのページ NO.60 「今、できることをみつけよう～看護の魅力再発見～」  
《安来市立病院看護部次長 伊澤 里美》
- ◆ 赤ひげ先生「地域医療への道のり」《公立邑智病院整形外科 保坂 聖一》 ◆ 編集後記



## 地域医療

### 最前線

No.82

### 時代に即した医療・介護の提供体制について

島根県健康福祉部長

安食 治外



令和4年

度も、皆さまも、皆さ  
まとともに  
懸命に闘っ  
た新型コロナ  
ナ対応を中  
心に、あっ  
という間に

半年が経過しました。平素から本県の健康福祉行政に格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

3年目となる新型コロナウイルス感染症については、医療関係者の皆さまには、引き続き高い使命感をもって、その最前線での対応に当たっていただいております。6月下旬からのオミクロン株B・A・5系統による感染急拡大により、医療機関や保健所の業務がひっ迫することとなり、調査・検査の重点化や見なし陽性の対応など、様々な新型コロナウイルス対応を変更してまいりました。9月26日からは、全国一斉にWithコロナの新たな段階への移行に向けた療養の考え方の見直しが行われ、患者届出の重点化が行われました。本県に

おきましては、発生届の対象とならない方を対象として「しまね陽性者登録センター」を設置し、県民の皆さんの健康を守ることを第一に対応の変更を行いましたが、大きな混乱もなく対応できております。この間の関係者の皆さまのご協力に感謝申し上げますとともに、今後とも皆さま方のご理解をいただきながら新型コロナウイルス対応に当たってまいりたいと考えておりますので、引き続きよろしく申し上げます。

地域医療連携推進法人、社会福祉連携推進法人の活用も一つの方策となり得ます。県もわが事として検討に参加し支援をしていきたいと考えています。一方で、地域での在宅医療を含む一次医療を支える医療従事者の確保も重要です。地域で必要とされる総合的な診療能力を持ちプライマリケアを実践できる総合診療医、特定行為を行う看護師、認定看護師等の養成を進めていく必要があります。

さて、本県の地域医療を取り巻く環境は、ますます厳しさを増しています。地域の拠点病院にあっては、医師、看護師をはじめとする医療従事者が不足する中で病床数が減少し、診療所においては、医師の高齢化や後継者の課題によって診療所の数や医師数が減少しています。こうしたことから、地域によっては、在宅医療を含む一次医療の提供が難しくなる地域も出てきています。また、今後は、人口減少や高齢化の進展によって、地域コミュニティの維持や医療、介護だけではなく日常生活に必要な機能・サービスの確保が難しい地域が増えていくことが予想されます。

また、看護師についても、県立中央病院において特定行為を行う看護師、県立大学出雲キャンパスにおいて認定看護師の養成をいただいているほか、大学、養成施設においては、看護学生の頃から地域実習を通じた地域の健康課題を知る取り組みが行われ、地域に寄り添う視野をもった看護師の養成にご尽力いただいております。

今後は、各地域で市町村が中心となつて、地域をよく知る医療機関や看護サービス事業者、住民など関係者が一次医療や介護サービスのあり方について議論する場をつくって検討をしていく必要があると思います。こうした検討の場で、地域の拠点病院が一次医療に果たす役割や、活用できる物的、人的な資源が減少するなかでの効率的な医療、介護サービスの提供について検討していただきたいと思います。その際に、

提供体制の整備とともに必要となる人材の養成確保に向けた取り組みを皆さま方と議論しながら進めていきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

## 専攻医のページ

### 総合診療科を専攻して感じる こと

益田赤十字病院

総合診療科 青木 光



こんにちは。益田赤十字病院で総合診療科プログラム1年目（医師3年目）の青木と申します。初期研修が終わってはや半年経ちますが、現時点で私の思いをお伝えできたらと思いますので、よろしくお願いします。

まず私の経歴ですが、島根県益田市出身で、2013年4月に島根大学医学部に入學し2020年3月に島根大学医学部を卒業後、益田赤十字病院で初期研修を2年間行い、引き続き益田赤十字病院で総合診療専門研修プログラムを専攻し研修させていただいています。地元益田市で研修できることはとても光栄に感じています。

さて、総合診療医1年目、医師3年目として感じていることは、「忙しい、勉強する暇がない、知識不足、眠たい」などマイナス面が先に浮かんでできてしまいますが、プラス面でいうと「自分でできることの幅が増えたこと、患者さんからの感謝、患者さんを救えた時の喜び、終末期の患者さんを診る大切さの学び」などがあります。

医師3年目として、日々の業務に追われ、勉強する時間が少ないと感じています。知識不足を感じているなかで、私自身、勉強をしなければと思う一方で、娯楽や睡眠欲に誘惑されてしまっているように思います。こうして書き起してみると、以前友人にも言われた言葉を思い出します。「時間は作るもののだ」と。少ない時間をいかに有効に使うか、効率のいい時間の過ごし方を考え、受動的でなく能動的に活動していくことが大事だと思えます。自分の甘えをこの機会にいったん見直して、いい医療を提供できるほどの医師になるために、日々の勉学に邁進していかなければと痛感しております。

一方で、救急外来から入院、入院から退院、退院から外来、というように患者さんに対して最初から最後まで自分で診療ができる点に関して幅が広がったと感じております。もちろん自分で判断できない症例等は上級医に確認します

が、基本的には自分自身で診療することになるので、責任も感じることも多く、また患者さんから感謝される機会も増え、自分のやっている診療が患者さんの役に立っていると思えるようになりました。そこにやりがいを感じている反面、感謝していただくのに十分な診療ができるように努力する必要があると感じています。

また終末期の患者さんを診療することも増え、何度か訪問診療する機会がありました。入院や外来の場で家庭の様子について問診して、ある程度家庭のイメージを膨らませますが、実際に家に訪問してみるとみると、思っていたより家が清潔であったり、家族がそばで患者さん本人を介護・ケアしているといった良い環境で療養できていることや、院内での診療では感じることができないことを経験できました。家庭でしか見せないその患者の表情やしぐさがあり、家の環境をみて医療者側ができることを考えるきっかけにもなるので、訪問診療の大切さを学びました。

まだ医師3年目になり半年ですが、これまでの間だけでも感じることは様々あったと振り返って思っています。地元益田に一人の医師として貢献できるように精一杯精進してまいりますので、今後とも温かく見守っていただけると幸いです。

## 看護師さんのページ

No.60

### 今、できることをみつけよう 看護師の魅力再発見

安来市立病院

看護部次長 伊澤 里美

当院は安来市広瀬町に位置する公立病院です。昨年から訪問診療・訪問看護・訪問リハビリを開始し、救急告示病院としての役割に加え在宅療養のサポートに力を注いでいます。

30年前、何気ない気持ちで参加した一日看護体験によって私は看護師を目指すこととなりました。そんな私が今、看護体験を計画・実施する立場となりました。計画を立て始めたころは新型コロナウイルス第6波も収まり、これまでの「当たり前」が戻ってくるのではないかと感じた時期でした。募集開始と同時に安来市、松江市、遠くは大田市や飯南町から想像を超える申込がありました。

しかし、第7波はどこよりも先に島根県にやってきました。「職場体験できんかったな。やってみたかったなあ。お兄ちゃんなんて、写真とかあつていいよね。僕なんか、ネットまで調べて終わり。それで新聞作れとか：」これは、現在高校1年生の次男が中学生の頃、職業調べの宿題をしながら言った言葉です。長男は、この時の体験によって以前とは

全く別の道へ歩もうとしています。もしこの経験がなければ、現実とのギャップにもがき苦しむこととなったでしょう。看護師として、一日看護体験に想いを馳せ申し込んでくれた学生の親世代として、将来をみつけるために体験をしてもらいたい。そんな思いから「コロナだからできない」のではなく「コロナでもできる体験」を考える日々が続きました。こうした中、あるエピソードがヒントになりました。コロナ禍の看護は家族を交えた看護を寸断したように思えました。状態報告は看護師による電話です。正しく状況が伝わっているだろうか。お互いの声を聞きたいのは患者さまでありご家族です。「LINEってビデオ通話ができるよね」看護部のこの発想から、3年前よりLINE等のビデオ通話機能を用いての面会を始めています。この中で忘れられないエピソード。それは病室と遠方に住むお孫さんをつないだ看取りの場面です。LINE電話をつなぎ、感謝の気持ちを通して看取りをされました。病室はご家族の温かい雰囲気包ま



れていました。このことが体験活動に活かせるのではと閃きました。看護師の働く場面を撮影し、看護師に看護の魅力を語ってもらうとともに、他職種から見た看護師についてインタビューを実施し、それらを編集した動画を体験活動参加者に見てもらうことにしました。他職種へのインタビューは突撃取材。にも拘わらず、看護師のことを褒める言葉のシャワーが続きました。看護師の魅力を再発見した瞬間でした。看護師はチームワークの要となっていて、私たちが患者さまの一番そばにいて、誰よりも患者さまのことを理解している。そう感じていたのは独りよがりではありません。

せんでした。そして看護師がこんなにも他職種からも必要とされていることを改めて自覚し、喜びを感じました。体験を終え、患者さんと接しなくても人の手の温かさや心でケアをすることの重要性、看護の技術に触れ「わたし絶対看護師になります」と帰りに声をかけてくれたAさん。彼女と私は「いつか、看護師として会おうね」と言葉を交わしました。彼女の目はきらきらと輝いていました。私の伝えなかった看護師という仕事。伝えられたようです。これからも看護の魅力を語り続けることができる看護管理者として日々を過ごしていきたいと思えます。

## 赤ひげ先生

地域医療への道のり

公立邑智病院整形外科

保坂 聖一

私は40代のおっさん整形Drですが、人生の半ばが過ぎようとしている時、このまま漫然と医局の人事で病院に勤めていてよいのか、人生後悔しないだろうかと思うようになりました。医師が転職を考えるのは40代が多いそうですが、20年近く医者をやっていると誰しもそのような心境になるのかもしれない。折しもコロナ禍で医療現場が混乱し、我々外科系とくに整形のようなマイナー外科系は患者数も手術も減っていた時期でした。

私の周りでも40代で開業した人がいましたが、都市部では開業医はすでに飽和しており、また整形の場合、個人開業では手術は難しくなります。私の場合、開業よりも本当に整形外科医がいなくて困っている地域の病院で働きたいと思うようになりました。しかし、いざ就職先を探す際一番困ったのは、どこのどのような地域で何科の医師が足りないのか、調べる手段がないことでした。所属医局に当たってみてもよいのですが、関連病院は大抵都市部にあってす

に複数の整形外科医がいる病院です。特に地域にパイプもない私はネットに頼るしかありませんでした。

私は地域で医療をやるなら公的な医療機関がよいと思っていましたので、地方自治体で整形外科医を募集していないか当たってみました。が、実際調べてみると圧倒的に情報量が少なかったです。一つの公的な医師募集サイトにも登録してみました。基本的には先方から求人情報が送られてくるのを待つことになるので効率的とは言えませんでしたが、いくつかの地方自治体はドクターバンク事業をやっています。それほど多くはありませんし、私のような医師に広く門戸を開いている訳ではなさそうでした。その点島根県には医師確保対策室が設置され、赤ひげバンクが開設されています。専任の担当者や医師がおり、私の知る限り他県に比べ力が入っていると思います。

私は1社しか知りませんが、担当者付き、こちらが知りたい情報提供は比較的きめ細やかです。また、病院関係者との面談や見学の段取りもセッティングしてくれるので多忙な方にはいいと思います。当然先方もビジネスですので、就職が決まれば成功報酬がいくらかと契約されており、商売っ気があるのは否めません。就職を決める時期など若干急ぐ気配が感じられました。

私は結局、島根県の赤ひげバンクと民間サイトで検討を重ね、最終的に島根県は公立邑智病院、北海道、東北地方から2病院に絞りました。その間も当然診療業務はありますし、家族との相談、また所属医局との相談もありますので負担は大でした。登録から病院関係者との面談、病院見学まで半年以上かかったと思います。さて、これから公立邑智病院に就職を決めるまでを述べたかったのですが、紙面の関係でまたの機会にさせていただきます。



## 島根県内で働いてくださる 医師を募集しています！



まずはお気軽にお問い合わせください！



医師募集キャラクター  
赤ひげ先生

- 専任スタッフ（医師）が面談に伺います。Webでの面談も行っています。
- ご希望に応じた医療機関の紹介や生活全般の相談に応じます。
- 医療機関や地域の雰囲気を見学いただくツアーの希望も個別に承ります。（旅費支援あり）
- 令和3年度までの医師招へい実績 188名

島根県医療政策課医師確保対策室

〒690-8501 島根県松江市殿町1番地

☎ 0852-22-6683

✉ akahigebank@pref.shimane.lg.jp

SHIMANE  
AKAHIGE  
BANK

赤ひげバンク で検索

### 編集後記

『島根の地域医療』第77号をご覧いただきありがとうございました。また、お忙しい中にもかかわらず執筆いただいた皆様、ありがとうございました。島根県HPでは、令和4年10月24日現在の医療機関の医師募集情報を掲載しています。詳しくは、

<https://www.pref.shimane.lg.jp/medical/kenko/iryu/ishikakuhotaisaku/isi-kyujin.html>

または、「島根の医師確保対策」で検索、ご覧ください。